

4	子供政策連携室	子供目線に立った取組の推進
事業概要	東京都こども基本条例を所管し、子供や子育て家庭が直面する複雑化・複合化した課題に対し、分野横断的視点から企画・調整機能を発揮するとともに、子供に関する実態調査や国内外の先進事例の調査・研究、課題抽出等を通じ、既存の枠組みに捉われない組織横断の取組や政策分野の垣根を越えた先進的な取組に挑戦する。	
これまでの経過	令和2年9月～ こども未来会議の開催 令和3年4月 東京都こども基本条例 施行 令和3年12月 こどもスマイルムーブメント スタート 令和4年4月 子供政策連携室 発足 令和5年1月 「こども未来アクション」公表 令和5年7月 「チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2023」公表 令和6年2月 「こども未来アクション2024」公表 令和6年8月 「チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2024」公表 令和7年1月 「こども未来アクション2025」公表 令和7年8月 「チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針2025」公表 令和8年1月 「こども未来アクション2026」公表	
現在の進行状況	1 子供の意見やエビデンスに基づく子供政策の推進 ○全ての子供が誰一人取り残されことなく、将来への希望を持って、伸び伸びと健やかに育っていくことができる社会を実現するためには、当事者である子供の意見を聴くことが不可欠である。 ○そのため、多様な手法により、子供の声を丁寧に聴くとともに、子供に関する実態や意識の変化を継続的に把握し、多面的な分析を通じて課題や行政ニーズの深掘りを行っている。 《リンク》 子供の意見やエビデンスに基づく子供政策の推進 室事業の紹介 子供政策連携室 2 「東京都こども基本条例」の普及啓発 ○東京都こども基本条例（令和3年4月1日施行）では、「子どもの権利条約」の精神にのっとり、子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先にするという基本理念を明確化している。 ○令和7年度は、国内外の多様な主体との連携を通じて、条例理念の発信や意見交換等を行う場を創出している。 《リンク》 東京都こども基本条例の紹介 子供政策連携室 東京こども政策国際会議 室事業の紹介 子供政策連携室	

現在の進行状況	3 こども未来会議の運営 ○「子供が笑顔で子育てが楽しいと思える社会」の実現に向けて、海外等の先進事例も踏まえ、従来の枠組みに捉われない幅広い視点で議論を行うことを目的として、令和2年9月に設置した。 《リンク》 こども未来会議 室事業の紹介 子供政策連携室 4 子供とつながる情報プラットフォーム ・ 東京都こどもホームページ ○子供と都政をつなぐ新たな情報プラットフォームとして、未来を担う子供が楽しみながら東京の魅力を感じ、都政への関心を高めてもらうことを目指し、令和4年度より公開している。 ○ホームページ作成に当たっては、都内の小学校への出前授業を通じた意見収集や、子供によるワークショップ、子供向けのアンケートを通して得た自由な発想や意見を基に、ホームページの構成やコンテンツ内容の検討・決定を行った。公開後も同様に、子供から意見やアイデアを聴き取り、ホームページの更新に反映させている。 ○令和7年度のワークショップでは、「東京こども算数マラソン」の新設に向けての意見交換や、「バーチャル社会科見学」に追加する施設の選定に向けた意見交換を行うなど、子供の意見を取り入れながら、コンテンツの充実を図っている。 《リンク》 東京都こどもホームページ 東京都こどもホームページについて ・ Tokyo 中高生Webサイト ○「中高生に特化したサイトが欲しい」という中高生の声を踏まえ、公募により選ばれた中高生の制作メンバーと共に制作を進め、令和8年3月より公開している。 ○Webサイトの制作に当たっては、「AIを活用した学習」「都政の情報や相談窓口とつながる」「中高生目線で自ら情報を発信」の3つをコンセプトとして、制作メンバーによるワークショップやサイト上のアンケート等を通じて中高生の意見を聞きながら、Webサイトのデザインやコンテンツ内容の検討を行った。 ○令和7年度のワークショップでは、Webサイト全体の色調や機能をはじめ、AIを活用した英会話学習などの各コンテンツの内容等の検討を行ったほか、中高生が自ら都政を取材し記事を作成し発信するなど、中高生が日常的に利用したくなる魅力的なサイトとなるよう、中高生と“一緒に”制作活動を進めた。 ○Webサイトの愛称は、都内中高生による投票で「Teens' Tokyo」に決定した。 《リンク》 サイトの歴史 Tokyo 中高生 Web サイト 5 組織横断の取組の推進 ○子供や子育て家庭が直面する複雑化・複合化した今日的課題など、既存の枠組みでは対応が難しいテーマごとに、子供政策連携室が核となり、政策分野の垣根を越えて関係局からなる推進チームを組成し、リーディングプロジェクトとして組織横断で取り組んでいる。
---------	---

・乳幼児期の子育ち

幼稚園・保育所等のどちらに通っていても、乳幼児期から同年齢・異年齢の子供や、保護者以外の大人との関わりの中で、様々な体験・経験ができる環境を整え、全ての子供の生涯発達における土台形成を支援する。

《リンク》

[乳幼児期の子育ち|推進チーム|子供政策連携室](#)
[すくわくポータル](#)

・学齢期の子育ち

学校生活になじめない子供が自分らしく成長できるよう、多様な学びの場・居場所を創出する。

《リンク》

[学齢期の子育ち|推進チーム|子供政策連携室](#)
[TOKYO 多様な学びの場・居場所ナビ](#)

・学校の居心地向上

学校の居心地をより良くするための取組を研究機関等と連携して実施し、科学的なエビデンスに基づいて取組の効果を検証する。

《リンク》

[学校の居心地向上|推進チーム|子供政策連携室](#)

・子供を事故から守る環境づくり

産官学民連携の下、「変えられるものを変える」の視点で事故予防のサイクルを回しながら、子供の事故が起きにくい環境づくりを推進する。

《リンク》

[子供を事故から守る環境づくり|推進チーム|子供政策連携室](#)
[東京都こどもセーフティプロジェクト](#)
[子供の事故情報データベース](#)

・子育てのつながり創出

子育て家庭に寄り添ったきめ細かな施策により、“子育てのつながり”を創出する。

《リンク》

[育ちを支える「つながり」の創出|推進チーム|子供政策連携室](#)
[ファミリー・アテンダント|育ちを支える「つながり」の創出|子供政策連携室](#)
[子供・子育てメンター“ギュッとチャット”|育ちを支える「つながり」の創出|子供政策連携室](#)
[ギュッとチャット相談窓口](#)

・日本語を母語としない子供を支援

子供目線に立った相談体制の整備や居場所づくりの促進に取り組むとともに、一人ひとりに応じた日本語教育・指導により、地域や学校への適応をサポートし、多くの人とつながり、心理面や生活面等にも寄り添った、きめ細かな支援を実施する。

《リンク》

[日本語を母語としない子供を支援|育ちを支える「つながり」の創出|子供政策連携室](#)

現在の進行状況	・ヤングケアラーを支える ヤングケアラーを早期に把握する環境づくりの推進、子ども・若者育成支援推進法の一部改正も踏まえた関係機関の連携及び情報共有の促進、ヤングケアラーへの多面的・継続的な支援の充実、ヤングケアラーのいる家族全体を支える視点からの施策の推進に取り組むことで、当事者の意見を尊重し、本人が直面する実情や気持ちに寄り添いながら、多機関連携の下、多面的かつ切れ目のないサポートを実施する。 《リンク》 ヤングケアラー 育ちを支える「つながり」の創出 子供政策連携室 ヤングケアラーのひろば ・ユースヘルスケア 心身の様々な変化に直面するとともに、不安や悩みを抱え込みやすい思春期の子供に対し、自らの健康管理の意識向上と行動を後押しするとともに、ユース目線に立った相談環境の整備を推進し、適切な健康管理の基礎を培いながら、将来を見据えた健康増進の取組を支援する。 《リンク》 ユースヘルスケア 育ちを支える「つながり」の創出 子供政策連携室 TOKYO YOUTH HEALTHCARE -10代からの健康・医療サイト- ・子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進 官民の連携により、学校内外で様々な体験・経験の機会を創出し、子供の豊かな育ちを社会全体でサポートしていく。 《リンク》 子供の未来を育む「体験活動・遊び」の推進 推進チーム 子供政策連携室 ○これまでの取組により、着実な実施段階に至ったプロジェクトを再構築するとともに、新たに直面する課題に対しては、新規のプロジェクトを組成していく。 ・思春期の「メンタルヘルス」増進 思春期におけるメンタルヘルスの増進は、成人期において充実した生活を送るための大切な基盤である。未来を担う子供たちの誰もが将来に希望を抱くことのできる社会が実現できるよう、メンタルヘルス対策を強化していく。 《リンク》 思春期の「メンタルヘルス」増進 推進チームによるリーディングプロジェクト 子供政策連携室 ・多様な「子供の居場所」創出 子供にとって、居場所は、幸福度や自己肯定感等を高める上で重要な役割を果たしている。一人ひとりの置かれている環境に寄り添い、子供の居場所を創出し、子供のウェルビーイングを高めていく。 《リンク》 多様な「子供の居場所」創出 推進チームによるリーディングプロジェクト 子供政策連携室
---------	--

現在の進行状況	・グローバルな感覚を育む機会の創出 子供たちが将来、世界を舞台にした活躍へとチャレンジできるよう、その意欲を育むとともに、挑戦を後押しすることが必要である。未来を担う子供が自らの可能性に挑戦し自己実現を図れるよう、早くから多文化に親しみ、豊かな国際感覚を育む機会を創出していく。 《リンク》 グローバルな感覚を育む機会の創出 推進チームによるリーディングプロジェクト 子供政策連携室 6 多様な主体と連携した子供の笑顔を育む取組 ○企業・NPO・学校・区市町村等、社会の様々な主体と連携し、官民一体となって「子供の笑顔があふれる社会」「安心して子供を産み育てられる社会」を目指す取組として、令和3年度より「こどもスマイルムーブメント」を推進している。 ○幅広い主体の連携を都が促進し、リーディングモデルとなる象徴的な取組であるコア・アクションや、参画企業・団体が主体となる、各主体の特性や強みを活かしたアクションにより、子供の笑顔につながる様々な取組を展開している。 ○令和8年3月時点で、2,300を超える企業・団体がこどもスマイルムーブメントに参画している。 (1) コア・アクションの推進 ・子供の参画機会・体験機会の創出 各界の第一線で活躍するアンバサダーと子供が対話する機会を創出することにより、子供の発見や学びにつなげるとともに、「子供を大切にする」というメッセージを社会全体へ発信していく。 ・子育てしやすい社会に向けた「育業」の推進 令和4年度に発表した育児休業の愛称「育業」の理念を広く普及させ、望む人誰もが「育業」できる社会の気運を醸成し、親子時間を大切にした多様な働き方を推進するため取組を展開していく。 《リンク》 育業 東京都 こどもスマイルムーブメント ・中高生の職業体験（TOKYO J o b E X） 職業体験を希望する中高生と企業・団体をマッチングする「TOKYO中高生職業体験サイト J o b E X（ジョブイーエックス）」を通じて、中高生のニーズを捉えたリアルな職業体験の機会を提供している。 また、本事業の一環として、「中高生リポーター」が職業体験に自ら参加して取材し、体験した内容や企業・団体の取組、経営層等へのインタビューを、中高生の目線で記事にして「J o b E X」サイトで発信していく。 《リンク》 中高生職業体験サイト Job EX 東京都 こどもスマイルムーブメント
---------	---

現在の進行状況	(2) 参画企業・団体によるアクションの促進 参画企業・団体による主体的アクションの展開を様々な手法で促進し、子供の笑顔につなげていくため、次に掲げる取組を推進する。 ・子供の笑顔を育む先進的な取組を行う企業・団体への表彰 子供の笑顔を育む先進的な取組を実施する参画企業・団体を「こどもスマイルムーブメント大賞」として表彰している。受賞企業・団体の取組については、都がメディア等で広くPRし、子供を大切にする社会に向けた気運を一層高めていく。 《リンク》 こどもスマイルムーブメント大賞 東京都 こどもスマイルムーブメント (3) こどもスマイルムーブメントの普及啓発 こどもスマイルムーブメントとしての一体感を醸成し、認知度を向上するため、ロゴの活用やアンバサダーからの発信等により、都民や企業・団体など様々なターゲットに向けた情報発信等を展開している。 《リンク》 東京都 こどもスマイルムーブメント
今後の見通し	以下ホームページをご覧ください。 《リンク》 ・チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針 2025 チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針 2025 ・チルドレンファーストの社会の実現に向けた子供政策強化の方針 2025（概要版） https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kodomoseisaku/202508seisakukyoka_gaiyou_pdf ・こども未来アクション 2026 こども未来アクション 2026 本編 ・こども未来アクション 2026（概要版） https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kodomoseisaku/2026_miraiaciton_gaiyou_pdf
問合せ先	子供政策連携室 企画調整部 企画調整課、プロジェクト推進課
電話	03-5388-3812 03-5388-3814